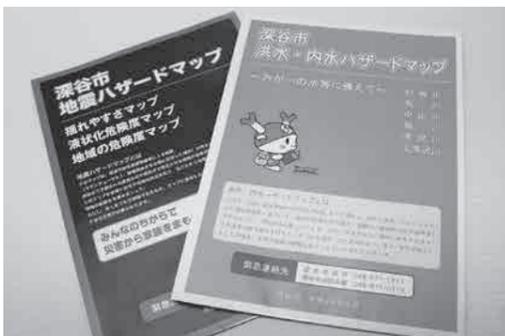


特集 『いつも』で『いざ』に備える!!



▲市のハザードマップ。総務防災課や市ホームページ（HP）『ハザードマップ』で検索）で確認できます。

ハザードマップを確認

『平成30年7月豪雨』の被害に

不意に襲う災害の際には慌ててしまいがちです。『いつも』災害に備えて、普段から慌てずに行動できるように、次のことを家族みんなで話し合い、情報を共有しておきましょう。

自分で自分の命を守る『自助』

災害が起きた時に、まず身を助けてくれるのは自分です。普段のちょっとした行動や心掛けで誰でもできるものです。その具体例を紹介しましょう。

遭った自治体では、その自治体のハザードマップに掲載されていた災害危険箇所と実際に被害のあった箇所がほぼ一致するなど、今改めてハザードマップが注目されています。

市のハザードマップには、市内の避難場所や避難する際の注意など家庭での防災対策を中心に掲載されています。

災害は急に襲ってきます。その時、あなたや家族が自宅にいるとは限りません。自宅から避難する場合と学校や勤務先などから避難する場合では、避難する場所や避難経路が異なります。あらかじめ、自分や家族がいる可能性の高い場所の周辺を調べておきましょう。

また、避難する際に『誰と避難するか』も重要です。家族に小さなお子さんやお年寄



『いつも』で『いざ』に備える!!

9月は『防災月間』です。災害はいつ、どこで、どのように起こるか予測ができません。深谷市は、海からも遠い場所に位置し、平野であるため、今まで地震や豪雨などの災害の際にも大きな被害が出ることはありませんでした。

しかし、記憶に新しい『大阪北部地震』や西日本の広範囲に被害をもたらした『平成30年7月豪雨』など各地で『想定外』の災害が発生しています。

今月は、『いざ』というときのために、『いつも』備えておける対策を特集します。

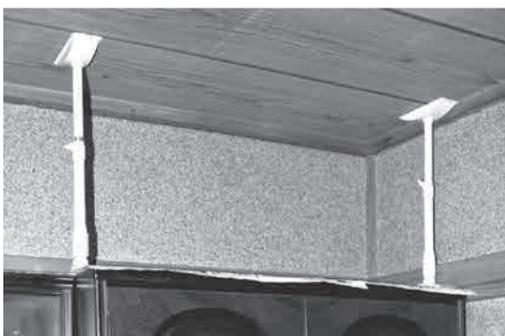
り、体が不自由な人がいる場合など、さまざまな状況を想定し、どう行動すればよいかを考え、家族や周囲のかたと話しておくことも大切です。

家の中の危険な箇所を確認し、家具を固定する

過去の大地震では、自宅で被災し、家具の下敷きになったかたや落下物の被害に遭ったかたも多くいらっしゃいます。

普段から家の中の危険箇所を確認し、次のポイントを守って固定しておきましょう。

①軽いものは上に、重いものは下



▲専用の器具でたんすを天井と固定。大きさや長さもさまざまなので、適切なものを使用しましょう。

災害時などの情報入手方法は?

防災行政無線、テレホンサービス（☎048-551-0119）、ホームページ、ツイッター、メール配信サービス、テレビ（データ放送）など、さまざまな方法で情報を入手できます。『いざ』というときのために確認しておきましょう。

メール配信サービスの登録はこちらから!



▲QRコードを読み取り、空メールを送信してください

- ②落ちると危ないものは高いところに置かない
 - ③倒れたとき、出口をふさがない向きに置く
 - ④寝ている場所に倒れてこない向きに置く
 - ⑤器具など使って家具を固定する
- まずは自分の身近なところで、できるところから対策をしておきましょう。

災害が起きた時のために

ハザードマップを確認し、家の中の対策も終わったら、災害時の連絡手段や備蓄品についてもまとめておき、『いつ』というときに備えましょう。

家族が離れた場所にいるときにも被災する可能性があります。例

例えば、大人は職場にいて、子どもたちは学校にいるということもあります。

そんな時のためにも家族で話し合い、どこに集合し、どこに避難するかを決めておきましょう。また災害時には『災害用伝言サービス』なども活用しましょう。

災害備蓄品の準備

災害時のために備蓄し、『いつ』というときのために持ち出せるよう『いつも』準備しておきましょう。

■災害備蓄品の一例

- ・飲料水、缶詰などの非常食
- ・懐中電灯（ランタン）、携帯ラジオなど

災害用伝言ダイヤルの利用方法

災害時に、固定電話、携帯電話・PHSなどの電話番号あてに安否情報を音声で登録し、全国からその音声を再生することができます。

【操作手順】

1. 「171」をダイヤルします
2. 案内に従い、録音の場合は「1」を再生の場合は「2」をダイヤルします
3. 案内し従い、連絡を取りたいかたの電話番号をダイヤルします
4. 伝言を録音・再生します

非常食の一例



▲五目ごはん、パン、缶詰と飲料水。水は1人あたり1日3リットル必要だと言われています。



- ・現金、通帳、印鑑など
- ・医薬品や衛生用品
- ・衣類や雨具など

非常食は食べ慣れておけば、災害時にも抵抗なく食べられます。そのため、普段からレトルト食品や缶詰などを定期的に備蓄しておき、食べたらずいものに入れ替える『ローリングストック』という備蓄法がおすすめです。

備蓄法『ローリングストック』



データも証明！『自助』の重要性

災害の時にあなたを助けてくれるのは誰でしょうか？

左の表は、1995年に発生した阪神・淡路大震災時に生き埋めや閉じ込められた人の救助を誰が行ったのかを調査したものです。

表の通り、約7割の人が『自力で』もしくは『家族に』より救助されています。このことから『自助』が重要であることがわかります。

生き埋めや閉じ込められた際の救助

誰が	割合	種別
自力で	34.9%	自助 66.8%
家族に	31.9%	
友人・隣人に	28.1%	共助 30.7%
通行人	2.6%	
救助隊に	1.7%	公助 1.7%
その他	0.8%	-

(出典 日本火災学会(室崎益輝執筆部分):1995年兵庫県南部地震における火災に関する調査報告書)

地域で共に助け守り合う『共助』

地域で共に助け守り合う『共助』。4ページ下の表では『自助』に続き、約3割の人が『共助』により助かっています。

『いつ』というときに頼りになるのは、地域の力です。日ごろから自治会活動などに参加し、隣近所が分かる関係を築いておくことや、地域の危険箇所を確認しておくことなども重要です。

また、市内では、『消防団』や自治会ごとに結成される『自主防災組織』が、普段から地域で防災活動をしています。市では、今年度から地域防災を支える『防災士』について補助制



▲消防分団による中学校での「地域住民一体型防災訓練」の様子。

度を創設し、地域の防災活動がより充実するようにしていきます。

災害に強いまちへの基盤整備『公助』

市や消防、警察など行政が行うのが『公助』です。市では、『いつ』というときに『公助』が迅速かつ適切に機能するようさまざまな取り組みをしています。

実践的な訓練で防災力を強化

『総合防災訓練』では、市民のかただけでなく各防災関係機関や事業所などと合同で、大きな災害を引き起こす地震の発生を想定した訓練を毎年行っています。

訓練を通して、災害対応能力を強化し、防災体制の充実を図るだけでなく、改めて防災意識を高めていきます。

災害発生時の相互応援

『公助』の中心となる市役所でも『いつ』というときに備えています。市内18箇所に設置してある『防災倉庫』では非常食や飲料水、紙おむつ、毛布などさまざまな物資を備蓄しています。

また、さまざまな自治体や企業と『災害時相互応援協定』を締結していますが、広範囲にわたる災

害も想定し、県内だけでなく県外の自治体や企業とも協定を締結しています。

『公助』で普通の生活に

被災したかたが普通の生活に戻るまで支援していくのも『公助』の役割です。ですが『公助』の拠点となるべき市役所の庁舎が被害を受けてしまつては、支援自体に影響が出てしまいます。

熊本地震で被災した市町村の中には、庁舎自体が大きな被害に遭ったため、市民生活に大きな影響を与え、復興が遅れが出た例もあります。

そのため、市では、低層で重心の低い堅牢な庁舎を建設し、『いつ』という災害の際にも、『公助』の拠点として十分な機能を果たせるようにしていきます。

特集 『いつも』で『いつ』に備える!!

地域の防災活動のリーダーを育成!

深谷市防災士育成事業補助金

問い合わせ 総務防災課 (☎574-6635)

市では、地域の防災活動の促進に向けた活動を行う人材育成のため『防災士』の資格取得に対し、取得費用の一部を助成しています。

対象

- ①防災リーダーとして市内の自主防災組織などで活動する意欲がある
- ②市内の自主防災組織（または自治会）に加入し、自主防災組織の代表者（または自治会の長）の推薦を受けている
- ③市防災士名簿への登録と市内の自主防災組織などへの情報提供に同意する
- ④市税に滞納がない

助成対象経費

- ①防災士研修機関が実施する講座の受講料
- ②防災士資格取得試験の受検料
- ③防災士認証の登録料

補助金額

対象経費の2分の1の額(3万円を上限)